

◆ 東日本大震災から1ヶ月が経過

この度の東日本大震災にて被災された方々へ、心よりお見舞い申し上げます。

3月11日14時46分頃、三陸沖を震源に国内観測史上最大のM9.0の地震が発生してから、1ヶ月が経ちました。4月11日時点で宮城県内の死者は7,787名、行方不明者は6,387名（宮城県庁ホームページより）。調査が難航している地域もあり、その数は今後さらに増加するものと見られます。

当院でも停電や断水、電話も不通となり、更に誰もが予想だにできなかった津波が押し寄せ、その水位は床下に留まったものの水と泥に阻まれ陸の孤島となりました。

自家発電装置や貯水槽の水、災害時用の非常食料でしのぎながら診療を続け、その後、給水車や発電機車など日本全国からのご支援の下、ライフラインも復旧しました。

今回の震災では当院の他、同じ法人の2つの施設、矢本大塩地区の「さつき苑」と南三陸町の「歌津つつじ苑」でも、患者様・利用者様と同様に、多くの職員が被災者となりました。家を失った者や家族が行方不明の者、避難先から通勤している職員も大勢いますし、残念ながら今だに行方不明の職員もおります。

その後、様々な方面の援助や各地からの救援物資、そして職員の協力により、病院は少しずつではありますが以前の状態に戻りつつあります。

4月7日午後11時32分頃の震度6強の余震で、再度ライフラインが分断されましたが、関係各所の迅速な対応のおかげで、11日現在既に復旧しています。

東松島市や石巻市、南三陸町の現状を考えると、完全な復興にはまだまだ時間が掛かるでしょうが、一日一日着実に前進しているのを感じます。

当院では震災後、受付時間の変更や、いきいき健康講座の中止の他、ホームページからのお問合せ、お見舞いメールへの対応の遅れ、又は一部対応出来なかったなど、皆様に多大な御迷惑・御心配をお掛けしてしまい、申しわけございませんでした。また現在も、診療面や設備面などで御迷惑をお掛けしております。

「真壁病院」では4月11日より受付時間を元に戻し通常通り診療しております。「宮戸クリニック」は交通やライフラインの問題により休診していましたが、3月末から2回程避難所などで臨時診療にあたり、4月14日から通常通り診療を再開します。「さつき苑」では一部を避難所として開放し、一時は180人もの避難者を受け入れました。深刻な被害を受けた南三陸町にある「歌津つつじ苑」では一時的に避難者を受け入れた他、HuMA（特定非営利活動法人災害人道医療支援会）の活動により臨時診療所を開設し診療の拠点として活躍しています。

今回、多くの皆様より、温かい御支援・御協力を賜り深く感謝しております。当法人ではこの4月より新入職員も迎え入れることができました。完全な復興に向けて、スタッフ一同ますます一丸となって頑張りますので、今後ともよろしくお願い致します。



津波が押し寄せた真壁病院
正面玄関前 床下浸水に留まる
(3月11日午後5時頃撮影)



海水に浸かったJR鹿妻駅周辺(北側)
ピーク時よりも若干水位は下がった
(3月11日午後5時頃撮影)



津波の引いた後の真壁病院
正面玄関前 泥や漂流物がまだ残る
(3月15日午前10時頃撮影)



津波で車が流された国道45号線
松島町内(3月16日撮影)



大量の漂流物が流れ着いた
国道45号線赤井付近
(3月17日撮影)



道路の落ちた国道45号線と
石巻大街道の交差点付近
大街道側より(3月20日撮影)